

## ICT分野における技術戦略検討会（第3回）議事要旨

1 日時 平成30年1月31日（水）10:00～12:00

2 場所 総務省 第3特別会議室（11階）

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

長谷川座長、中尾座長代理、宇佐見構成員代理、江村構成員、関谷構成員、  
眞野構成員

（2）ゲストスピーカー

中村 株式会社三菱総合研究所 営業本部長

（3）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長、山碕国際政策課長、  
中溝通信規格課長、田沼研究推進室長、杵浦技術政策課統括補佐

4 議事要旨

（1）情報通信技術をめぐる現状と課題

長谷川座長より、資料3-1に基づき、第3回検討会の議論のポイントについて、説明が行われた。

その後、中村本部長より資料3-2に基づき、関谷構成員より資料3-3に基づき、中尾座長代理より資料3-4に基づき説明が行われた。その後、意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり。

### 【ネットワーク分野で重点を置くべき課題】

- 技術はムーアの法則により指数関数的に発達しているが、人間はリニアでしか物事を考えられないため、ギャップが生まれているのではないか。そのギャップを埋めるためには、もう一歩進んだ課題発見・解決が必要。
- 技術が可視化されていない世界の理想郷を描き、それを実現する方法を考えるのも、手段の一つ。

### 【ネットワーク分野における技術開発アプローチ、アーキテクト育成】

- 新しい技術を見きわめて使い分け、その技術の本質を理解できるよう教育することが、アーキテクト育成には必要。

- 資料3-2の12ページについて、研究開発は時間が経過するにつれ、市場投入に係る障壁が下がる等の変化があるため、時間軸の考えを導入すべき。
- テクノロジーについて国境を越えた検討をする際、コミュニティや場に広く参加し、情報を集めるようなウィーク・タイと、根回し等しっかり物事を仕上げるストロング・タイの両方の要素が必要。
- コミュニティに参加するのではなく、コミュニティを作るという視点が求められている。リーダーになれるかどうかという点が大きい。
- コミュニティなどに参加し議論する際は、物事の原理・原則や基礎的事項を押さえることが重要。ウィーク・タイやアーキテクトに求められるのは、新たな技術や物事の根本部分を探り当て、理解する能力。
- 例えば、AI人材が足りないからといって、その時点からAI人材を育てても遅い時代。予め学んでおくべき事は、哲学と自然現象をメタで記述可能な数学。基礎がしっかりしていれば、どの領域にも短期間で対応できる。世の中の流れが速くなってきているからこそ、もう一回基礎に立ち返るのは非常に重要。
- PAWRでは、企業、自治体、大学が集まり、具体的な課題に対して成果を顕在化（実証）させるプロジェクトを実施しようとしている。ただ議論して終わるだけでなく、具体的な一步を踏み出す方法も議論すべき。
- オープンコミュニティやオープンイノベーションは、あくまでも何かを技術的に達成するための場。その上に、それらを統合して、何か目的を成し遂げたいというモチベーションをもつ人たちがいる。その人たちのモチベーションを拾いあげる仕組みがあると良い。
- 国際的に企業が利益を出し、回り回って日本の国民が豊になる仕組み・保障があれば、どこでビジネスするかは関係なくなり、グローバルで実施する理由が明確になる。
- 研究開発で新しい提案をした際、一度海外に出たから日本に入ると歓迎されるが、日本発となると懐疑的にみられる。日本発の技術に対し、芽をつぶさない努力が必要。

## (2) その他

事務局より、今後のスケジュール(案)について説明が行われた。